

学校教育目標	< 若葉台小・中学校 教育目標 > ◎学校力と地域力で ・健やかな体と豊かな心を育みます(徳・体) ・学ぶ力を育て、高めます(知) < 若葉台中学校 教育目標 > ・互いを生かし、共に支えあう生き方を育みます(公) ・自ら課題を持ち、考え、解決しようとする力を高めます(開)				
	創立 14 周年 児童生徒数: 234 人	学校長 岩永 徹 主な関係校: 若葉台小学校・上川井小学校	副校長 石平 正典	3 学期制	一般学級: 7 個別支援学級: 2

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自ら考え、自ら学ぶ力 他者を理解できる「思いやり」の気持ち 自己肯定感 自己有用感	若葉台中学校 若葉台小学校	○自分に自信をもって生きる子ども ○他者とのつながりに目を向け認め合うことができる子ども ○基礎的な学力を身につけ課題解決に主体的に取り組む子ども ○小中学校の連絡を密に取りながら、地域参画型小中一貫教育カリキュラムを編成し小中の連携を推進しています。 ○小学校との交流活動を継続し、より良い交流体験カリキュラムを検討します。 ○児童生徒の交流と共に教職員の交流を深め若葉台の子どもたちの理解に努めます

中期取組目標 ◎子ども一人ひとりを大切に、学びを通して自立をめざします。 ○子どもが「わかる、できる」を実感し、「考える」授業を通して、思考力、判断力、表現力等の「学ぶ力」を育成します。 ○人も自分も大切にできる人権尊重教育を推進し、相手の立場に立って考えられる「思いやり」の気持ちと共生、協働の態度を育成します。 ○自治意識、自治能力を育てる主体的な生徒会活動を推進し、課題解決を図ろうとする力を育成します。 ○多様な人と関わり、充実した体験活動や実践の中で、自己肯定感や自己有用感を醸成します。 ○地域の教育力を生かして、地域からの学びと交流を図る中で、地域の中で成長し、社会に貢献できる子どもを育成します。

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当 学習指導部	①生徒が自ら問いを見いだし解決していく授業を通し、日常や社会の中で生きて働く力を育てる。 ②放課後学習会や夏季学習会などを活用し、基礎・基本の定着を図る。 ③校内や小中合同での授業研究会を通し、全ての教員が授業改善に取り組み、生徒の資質・能力の育成を目指す。
豊かな心 担当 学習指導部	①道徳科を要として、道徳教育や人権学習、平和学習を充実させ、思いやりをもち、よりよく生きる喜びを見いだす心を育てる。 ②校外学習や学校行事などを通して、生徒の達成感や自尊感情、自己肯定感を高めるとともに、他者との関わりの中で自他を大切にできる心情や態度を育てる。
健やかな体 担当 体育科・保健指導部	①1校1実践の縄跳びを中心に、運動や健康・安全についての理解と合理的な実践を通して、生涯にわたり運動に親しむ能力を育てる。 ②自ら心身の健康を保持増進するための実践力を育て、小中合同保健委員会では、生徒の実情にあったテーマを設定することで、実践意欲を高めていく。
自分づくり教育 (キャリア教育) 担当 学習指導部・特活指導部	①1、2学年ともに職場体験を実施し、実体験の充実から、生徒が主体的に今後の成長のために学び続ける意欲を持たせる。 ②進路相談を通し、生徒が自主的に進路を選択して、自己表現が図れるようキャリア教育を推進していく。また、保護者と進路決定に向け連携した取組を実施する。
特別支援教育 担当 特別支援教育委員会	①特別支援コーディネーターを中心に、専門機関との連携を図り、個に応じた個別の支援・指導計画を作成し、必要とされる支援や配慮を生徒の実態に応じて実施する。 ②校内研修を計画的に行い、特別支援教育に対する知識・理解を深め、学校全体として適切な支援を行う。
児童生徒指導 担当 生徒指導・特活指導部	①豊かな体験と学び合いの場としての行事を大切に、生徒の達成感を高める。 ②保護者・地域・関係機関と連携し教職員が情報を共有する中で、全校体制で生徒の成長を支援する。 ③生徒一人ひとりが、お互いの信頼関係を築くことから、安心して生活できる学校をつくる。
地域連携 学校運営協議会 担当 学地連事業実行委員会	①生徒の健全育成を目指して地域と連携・協力をし、地域行事への積極的な参加等を通し、コミュニケーション力や対人スキルを高めていく。 ②学校運営協議会を活用して、地域の教育力を生かし、だれもが安心して学べる教育環境づくりを行う。
読書活動の充実 担当 国語科・学習指導部	①生徒が主体的に読書に取り組めるように、「朝読書」を実施し生徒全員の「読書時間」を確保する。 ②読書により、生徒が語彙を増やし、表現力、想像力を豊かにできるよう、図書室の選書、図書紹介に力を入れ生徒の図書利用を促進する。
いじめへの対応 担当 いじめ防止委員会	①生活アンケートや教育相談を活用し、日々の声かけや観察を丁寧に行うことで、小さな心の変化を見逃さず、最善の支援を心がける。 ②生徒会を中心に「いじめ撲滅運動」を展開し、課題を解決しようとする力を高める。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革) 担当 教務部	①外部指導者を積極的に活用し、授業力の向上と生徒の学習意欲を高めるための研修を行う。 ②メンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心としながら経験の浅い職員の育成を図り、人材育成と資質向上に努める。 ③学校の組織力の向上をめざす中で、働き方改革の視点から適正な組織のあり方を考えていく。